

オ ラ ン ダ 便 り (2)

向 山 陽 子



お月さまが、カーテン越しに輝いています。朝七時、そろそろ起きなくては……今朝は晴れ、凍ってるかな？凍っていると、車のガラスの氷かきの時間だけ、早く起きなくてはなりません。部屋にヒーターが入りはじめました。室内は快適なので寒さのために起きられないという事は全くなく、もう少し、トロトロと夢見心地を楽しみたいだけ。

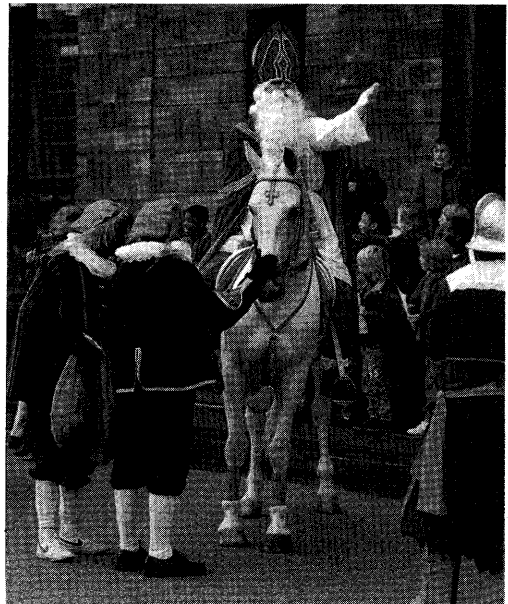
“あっそうだ、今朝は、みづきが早く学校へ行って、友達と宿題をするって言ってたっけ。お弁当のごはんも炊かなくては……今日こそ原稿を仕上げるぞ！”（この原稿!!）今週は、学校の最後の週で、子ども達の劇や音楽の会（夜七時～八時半）があり、先生方へのクリスマス

プレゼントを用意したり……“忙しいぞ”自分を奮い立たせて、七時四十分、やっとベッドから脱け出しました。

ヘッドライトの流れに合流して、車を走らせ、娘を学校に送った帰り、地平線がしらじらと明けてきます。時間は八時五十分。

オランダに来て、早くも一年八か月。神戸生まれ、東京育ちの私は、オランダの冬の長さ、曇り空の毎日、そして夜の短い夏に、“青空、星空欠乏症”になるのではと心配でした。それなのに、二度目の冬を迎えたこの頃は、北海から吹きつける風、どんよりとしたヨーロッパの冬空、街を控え目に飾るイルミネーションの美しさが大好きになってしまいました。（そう、毎日が天使が降りてきそうな空……わかるかな……ユーミン……なのです。）

季節は、シント・ニコラウスの日、十二月五日（注1）を終えて、街はクリスマスの準備に入り、家々も、ツリーを飾り、おちつきのある、それぞれの飾りつけを、窓から眺められる楽しい時です。又、クリスマス



▶ アムステル・ダムに到着したシント・ニコラウスと
ブラック・ビート

カード、クリスマスプレゼントの準備と、一年中で最も忙しい時期でもあります。

イギリス人の友達に、クリスマス休暇は、おみやげを持って国に帰り、親類への挨拶回りで、忙しいばかりとこぼしていました。「クリスマス・シンдрロームって

知っている？」と、アメリカ人の友達に教えてくれました。クリスマスの季節には、二つのタイプのカウンセリングの患者が増えるそうです。一つは、主婦層で、この季節の忙しさからストレスがたまるといいます。『良き主婦像』というのが根強くあるようです。もう一つは、さまざまな理由から家庭を持たない独り身の人達が、この時期、寂しさから、精神的に不安定になるのだそうです。

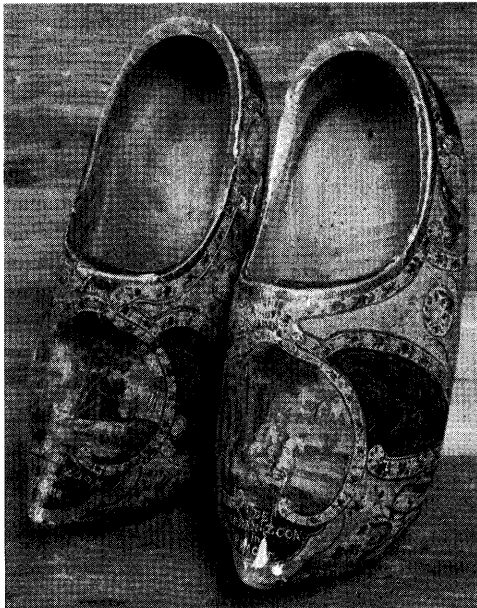
私の住んでいる地域では、十一月頃、泥棒の被害が増えます。それほど寒くもなく、クリスマスが気になりはじめる頃で、日本でいえば、年が越せるかどうか気になる時期、ということになるでしょうか。

一年の半分が冬のこの国で、冬至を過ぎれば、又、日は長くなって、クロッカスの咲きはじめる春を心待ちにします。冬至に向かう、日がどんどん短くなる十一月、十二月のはじめに、シント・マーチンの日（注2）や、シント・ニコラウスの日を祝って、子ども達中心の心暖まる行事があることに、冬の長い国の人々の生活の知恵を

感じます。

と同時に、日が再び長くなることへの喜びを表す、各地の昔からの祭りに、キリストの誕生をもってきた、キリスト教の知恵にも驚かされています。冬至が過ぎ日がのびてくると、私のようなものでも、再生、復活、命の

◀ ヒンデローベン教会の木靴



すばらしさを感じ、春が約束されているのを心の底から喜べるのです。

娘みづきは、元気いっぱいこちらでの生活を楽しんで
います。インターナショナルスクール、土曜日の日本語
補習校、アフタースクールのクラブ活動、おけいこ事
と、オランダの人々からみれば、超多忙（オランダの小
学生は、水・金曜日は午前のみ、土・日曜日は休み）な
のですが、本人はルンルンの毎日。インターの授業日数
は、年間、一七七日しかありません。勉強はびっしり詰
めこまれているようですが、その合い間に、ドラマや、
コーラス、アンサンブルの活動で、コンサートや、
ショーを開いたり、スキポール空港やホテルで歌ってき
たり、先日は、オランダのテレビ番組にまで出演してき
ました。そして今週は、赤い魔法使いになるというの
で、私の赤のトレーナーに赤いタイツ、赤い靴をはいて
登校しています。そして、クリスマス休暇のスキー行き
で頭がいっぱい。



▲ ハロウィーン、先生も子ども達も仮装（インターナショナルスクール）

二年近くかかって、英語の学習内容にも追いつき、アフタースクールも楽しめて、存分に生きているナと、そばで見ている、まぶしい位です。

そろそろ、日本語の語い面が気になり出す頃にさしかかってきているかもしれません。しかし、こちらに來たはじめの段階で、夫婦で、いろいろと考え、インターナショナルスクールを選択したのですから、心配しても仕方がなく、日本語の本を読み、日本語の作文、詩、日記、手紙を毎日書く努力を、母子で怠らぬようにするしかありません。

そんな心配よりも、「(野) 鳥に餌をあげなくちゃ、赤い実がなくなつて何を食べてるんだろ。」零度近くの庭に出てパンをまき、「あつ、この前植えた球根を、鳥がほり出してる!」と怒り、「ねえ、おかあさん知ってた? ボス公園の鴨や白鳥、冬の間、日本に行ってるんだつて! 私、アフリカへ行つてると思つてた。」とびっくりしている娘の少女期を喜びたいと思います。(日本よりも、アフリカの方がここから近いと思うので

すが…、今度、帰つて來た鴨にでも聞いてみましょう。)

私は…?

おけいこ事に忙しい駐在奥様の例にもれず私もいろいろと忙しくしています。幸い、娘の学校のおかげで他の国のお友達も出來はじめています。先生のお手伝いに出かけたりします。ヨーロッパというところは、とりわけ、インターナショナルスクールというところは、英語を話せない人もたくさんいて、みんな、お国なまりの英語を堂々と話しながら、「I can't understand what you mean.」なんて言われても平気で、自分の言いたい事が相手に通じるまで、くり返して、会話しているのだと、やつと私にもわかつてきました。それまでは、「What?」なんて聞き返されると、すぐ、私の英語がおかしいんだと卑下し、各国のお国なまりの英語、ネイティブの人の早い英語がわからないと、がっかりした時もありましたが、懲りずに話す事で、お互いに、「その人の英語」を

ヨローロッパって、そういうところです。ですからそれぞれが自分の国の言葉を堂々と話しています。

オランダは小国の故か、商業で成り立ってきた国の故か、国民は、六か国語を学校で習うと聞きます。例えば、オランダ語で何か聞かれて、こちらが分からなかったとすると、「イングリッシュ? フレンチ? ジャーマニー? スパニッシュ?」と聞かれ、答えた国の言葉でもう一度くり返してくれる、と言った具合です。

今、遅々として進まずですが、オランダ語も勉強しています。お隣のおじいちゃん達が、オランダ語を話すとても喜んでくれるのです。少し郊外に出ると、オランダ語しか通じなくなるので、必要な事位は、お世話になっている国の言葉で話したいではありませんか。

去年の九月から、日本語補習校の昼休みに本読みのボランティアをはじめました。主に低学年の子供達が集まってくれます。又、一月からは、有志の自宅を開放し

日常生活の中で、日本語を耳にする機会の少ない子と
も達の、日本語への興味の何かになれば……と思い、さ
やかな活動を始めます。

オランダに来てすぐ、就学前の日本の子ども達の事が気になりました。日本語獲得に大切な幼少時期を、オランダで暮らす子ども達は、現地の幼稚園や、英語のインター又はブリティッシュの幼稚園に通っています。

冬が長く、又、雨風の日の多いオランダでは、戸外で遊べる日は少なく、日本のように児童館などの施設がなないので、家の中の遊びが多くなりがちで、母子間だけの限られた日本語しか耳に入らないのが現状で「言葉が薄いのでは」という心配をよく聞きます。

二度ほど、日本の子ども達がいる、オランダの幼稚園を見学させてもらいました。三歳児十五名のクラスに五名の日本人がいました。先生は、包容力の大きな方でしたが、言葉の壁は厚く、日本の子供達は、困った時に訴える人として、先生を頼ってはいませんでした。母親以

外の大人も信頼に足るという経験を、せっかくの幼稚園で得られないのでいるのが、可哀相でした。日本人の母親達ももっと参加すればよいのにも思いましたが、毎日となると難しいでしょう。

国際結婚をして、オランダに住む方が、週に二時間だけ、日本語幼稚園をなさっています。先日、一時帰国された方の代理で、手伝ってきました。ユダヤ人の幼稚園の園舎を借りて、二十五名程の三、五歳児が集まっていました。遊具は使用してはいけないうまく、制限の多い中で、午後の二時間、子ども達は、午前それぞれの幼稚園の後、机の前で椅子に座って、「日本の幼稚園らしく」工作や、リズムを、みんなで行っている様子に、複雑な思いにかられ、三歳児のT君や、S君の「つかれたよ、遊びたいよー」の声に、思わず、「そうだよね」と口走ってしまいました。自分の「四回だけのお手伝い」の立場、長くてあと三年ちょっとしかオランダにいないであろう事なども考えあわせながらも、たくさんの課題を目の前にした心境です。

この私塾のような日本語幼稚園をはじめられたKさんも「私は、幼児教育の専門家ではないけれど、我が子の幼児期に、日本語の子ども集団が欲しかった。」とおっしゃいます。

ここ二年ほどで、オランダへの日本企業の誘致が増え、それに伴って、私達のような駐在家族も、幼児を持つ若い家族が増えていきます。日本人の多く住む地域の現地幼稚園や、インターナショナルスクールの幼稚部では、日本人が三分の一から半分を占めるようになっていきます。

全日制の日本人幼稚園がほしいとは思いませんが、(なぜなら、日本語保持の問題は深刻ですが、個人を伸ばしてくれる、小規模のこちらの幼稚園の方が、良いと思うからです) 幼児の日本語獲得、保持のための、又、幼児を持つ、若い母親達への何らかの支援の必要性を痛感するのです。

ささやかな日本語幼稚園の活動、私達をはじめようとしている文庫活動、時を同じくして、隣町でも文庫活動

がはじまりました。

文庫関係で、言いたい事は、「絵本、本がほしい！」の一言につきます。

はじめは、手持ちの本を持ち寄っては始めるつもりです。ICBA（国際児童文庫協会）に加盟するので、追い追ひ数十冊位は送られてくる見通しなのですが……又、デン・ハーグにある日本大使館の蔵書は、かなりなものと聞きますが、ここアムステルダムからは遠く、日常の活動をするのに、いちいちハーグまで出かけられません。アムステルダム全日制日本人学校（小・中学校）の図書室の蔵書もあるにはあるけれど、「良い本に、もっとお金を！」と叫びたくなる現状です。当然の事ながら、幼児向けはほとんどありません。

それでも、海外の日本人学校の中では、恵まれた方だと、重々承知しています。

「今はずい分良くなった。昔は……。」とも言われま



▲ オランダの画家アントン・ピークによる、デン・ハーグ、17c

そう、五年後に「今はずい分良くなった。」と言えるよう、目の前に見えてきた課題に、友人と一緒に取り組んでみます。

もうすぐ朝の五時、雪が降ってきました。雪の結晶のまま。

インターナショナルスクールで話す他国の母親達も、それぞれ母国語の保持に力を注いでいます。みんな帰る国があるから。

でも、ここオランダには、帰る国のない人々、難民もたくさんいて、職を得、結婚をして、あの難しいオランダ語を話し、オランダ人になっています。

オランダに来て、いろいろな目の色、髪の色、肌の色の人、車椅子の人、介添えの必要なお年寄りが、当たり前、マーケットで買い物をしていて、ハッとした時の事を覚えています。

オランダに来て、日本では見たことのなかった、インドシナでの戦争の記録映画を、テレビで見ました。

オランダの女王の日、四月三十日の事を教えてくれる隣のおじいさんに、浅はかにも、「昭和天皇の誕生日は四月二十九日、一日違いね。」と親しみをこめて話したつもりが、「ヒロヒトか?」と、急に、厳しい目に変わった時のことを忘れません。

主人の赴任に伴って、日本を離れて生活してみても、良かったと思います。

娘には、人生の長さ以外の事では、もうすぐ追い越されてしまいうでしようが、娘といつまでも、友達のように過ごせるように、主人の話し相手でいられるように、年老いてきた、日本の両親を、そのまま受け入れられるように、四十歳を目の前にして、一九九一年をすぐそこに感じながら、オランダの雪を見ています。

(一九九〇年十二月記)

△注1▽シント・ニコラウスの日(十二月五日)

ファーザー・クリスマス・サンタクロースの起源であるシント・ニコラウスの亡くなった日の前日、十二月五日

を祝う。その日より二、三週間前の土曜日に、シント・ニコラウスは、白馬と召使いのブラック・ピートと共にスペインから、船で、アムステルダム港に到着。街を白馬で回り、召使いピートは、子ども達にお菓子をまく。

この様子はテレビ中継される。この日から、子ども達は、夜、暖炉のそばに、シント・ニコラウスへの手紙にプレゼントの希望などを書いて、靴と、白馬のための水、角砂糖、人参などを共にしておく。十二月五日の夜、シント・ニコラウスは各家庭をノックし、良い子にはプレゼントを、悪い子は麻袋に入れて、スペインに連れ帰ると言われている。

△注2▽シント・マールナンの日

やはり、子どもに優しくかったシント・マールナンを祝う日で、夜になると、子ども達は、自分達で作ったランタンを手に、各家庭を訪れ、歌を歌って、お菓子や、果物をもろう。

△注3▽くりん——Kring——

オランダ語で輪、サークルの意。オランダの幼稚園

で、歌を歌ったり、絵本を読み聞かせる時によく使う。子ども達に親しみがあり、私達のいろいろな願いを込められるこの言葉を、平仮名にして、文庫名とした。

(はるにれの会・アムステルフェーン在住)